

生息する種類の減少

■生息する生物種の減少

今回の調査ではイシガレイを30匹採集した。4月の調査と同じ場所で採集し、平均全長は5.00cmであった(Fig.1)。4月の平均全長が2.79cmであり順調に成長していると考えられる。

イシガレイは順調と考えられるが、今回の調査ではイシガレイの他の魚類はまったく採集できなかった。昨年は1年間で16種の魚類を確認している。昨年の5月にはボラやクロダイの稚魚、マハゼを確認しており、種類の少なさが気にかかる部分である。新たに作られた導流堤には2カ所低い部分がある(Fig2.)、以前のようなヒューム管や水門(Fig.3)には今のところ設置されていない。私感であるが、水の出入りが以前より悪いように思われる。底質は粒が小さくなり、泥が堆積している。水の出入りが悪く干潟内で滞留するようであれば、今後気温が高くなっていくと水温の上昇や水質の悪化が懸念される。

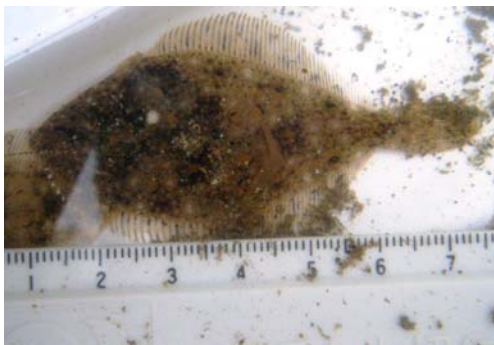


Fig.1 成長したイシガレイ



Fig.2 現在の導流堤

■川岸のアシハラガニ

蒲生干潟内でアシはほとんど見られないが、七北田川の川岸には多くのアシが残っている。かつて干潟内で数多く見られたアシハラガニはこちらで命をつないでいるのではないかとと思われる。今回の調査ではカヤックを使い、川からの観察を行った。アシハラガニを観察することはできなかったが、巣穴と思われるものは観察できた(Fig.4)。今後、多くのアシハラガニが川岸を賑わしてくれることを期待している。



Fig.4 川岸の巣穴



Fig.3 以前あった水門